



**〔安達地区〕**  
**幼稚園 年中・年長児の保育より**



**保育のワンシーン**



大型積み木を並べてコースを作り、コースのスタートからボールを転がす子どもたち。ゴールまでボールが転がり、喜ぶ子どもの姿を見て保育者は…



砂場で「今日は温泉を作る！」とはりきる子どもたち。水をためると砂が崩れてしまい、なかなか水をためることができない様子を見て保育者は…

**なぜ?**  
 すごいねえ!なぜ成功したの?〇〇くんの大成功のひみつ知りたいな!

砂が崩れてしまって困ったね。どうやったら水をためることができるかな? **どうやって?**

うまくいったのはなぜかな。このぐらいの力で転がしたらどうなるかな。やってみよう!

どうして崩れてしまうのかな? 砂で壁を厚くしたらどうかな。  
 やってみよう! うん!



やさしく転がしたらゴールまで行ったよ。ボールを変えるとどうなるかな。  
**【自立心、思考力の芽生え】へ**

〇〇くんと一緒にやったらいい考えが思いついたよ!  
**【協同性、思考力の芽生え】へ**



**ここがオススメ!**



この園では、保育者は子どもが自分で考えたり、自分の言葉で表現したりすることができるよう、意識して言葉掛けをしていました。

子どもの考える力を育むためには、「ボールがゴールまで転がってうれしい」「砂が崩れてしまって困った」という気持ちに共感するだけでなく、さらに理由や仕組みを考えることができるようにすることが大切です。

保育者が子どもの姿を丁寧に見取り、子どもの目線に立って「**なぜ?**」「**どうやって?**」と言葉をかけることが、子どもたちのやる気スイッチ(学び)につながっていました。教師の発する言葉の影響力は、大きいですね。

